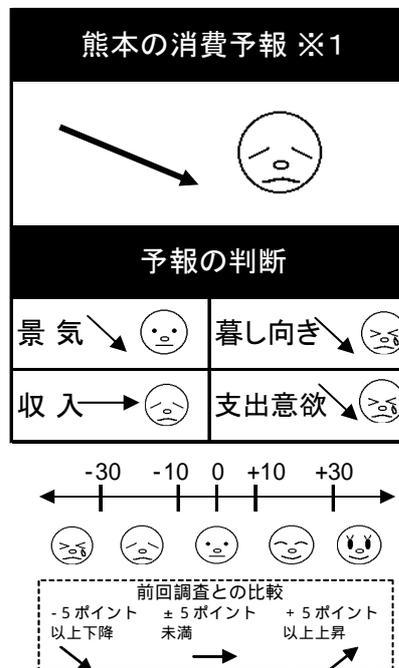


将来への不安材料多く、財布の紐は緩まず

熊本の今後半年間の消費予報【要約】

消費予報の指標としている「景気」、「暮らし向き」、「収入」、「支出意欲」の今後半年間の「見通し」をみると、「景気」見通しDIは、前回(平成19年5月実施)を22.6ポイント下回る 3.6となっており、実に8期ぶり(平成15年11月調査以来)のマイナス水準となった。「暮らし向き」見通しDIは、前回は9.6ポイント下回る 36.6、「収入」見通しDIは、2.2ポイント下回る 10.1、「支出意欲」見通しDIでは、6.5ポイント下回る 33.5となっており、いずれも厳しい見通しとなった。

今回の調査では、すべての見通しDIで前回調査を下回っており、消費者マインドは冷え込みを見せている。年々引き上げられる年金保険料等の公的負担増に加え、サブプライムローン問題による株価への影響、原油価格高騰によるガソリン価格や物価の上昇など、さまざまな要因による家計圧迫への不安から、財布の紐を引き締める傾向がうかがえる結果となった。



1 消費予報の読み方

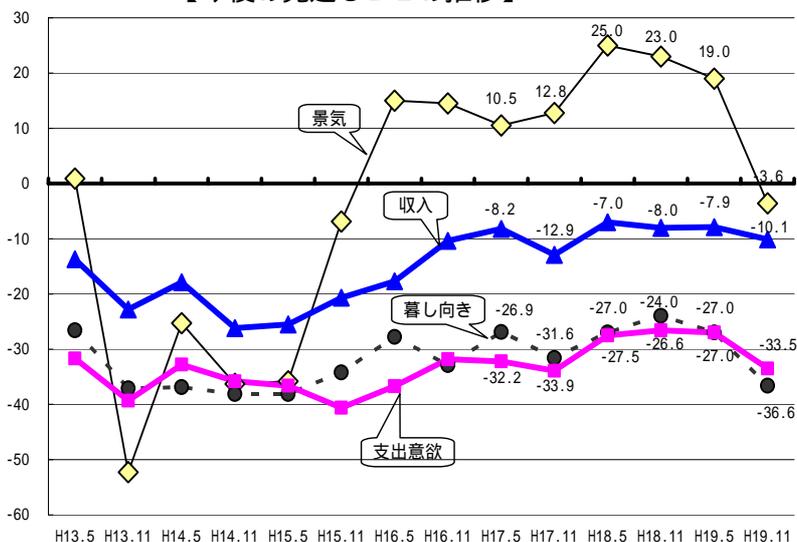
本調査では、消費マインドに影響する『景気』と『暮らし向き』と『支出意欲(支出の引き締め)』に対する意識、実際の消費に関わる『収入』の増減の、4つの項目について今後半年の見通しを質問している。数値(DI)は、「良くなる(増えそう、緩める)」と回答した人の割合(%)から、「悪くなる(減りそう、引き締める)」と回答した人の割合(%)を引いて算出した。4つの項目と『支出』から総合的に判断し、熊本の消費の予報を試みた。

【調査概要】

対象：熊本市在住の20代から60代の女性モニター500人
 有効回答数：442人
 調査時期：平成19年10月24日
 ~11月13日
 調査方法：郵送法
 回答者の属性

年齢	実数	%
20代	56	12.7
30代	98	22.2
40代	94	21.3
50代	95	21.5
60代	99	22.4
合計	442	100.0

【今後の見通しDIの推移】



景気の見通し

今後半年間の景気見通しD Iは、前回は22.6ポイント下回る3.6となっており、輸出などにみられる景気回復感とは対照的に、実に8期ぶりのマイナス水準となった。年代別にみると、すべての年代で前回は大きく下回っており、特に50代は、前回は29.0ポイントも下回る18.1となった。また、前回調査で明るい見通しとなっていた20代も、前回の+39.7を32.6ポイントも大幅に下回り+7.1となった(図表1、2)。

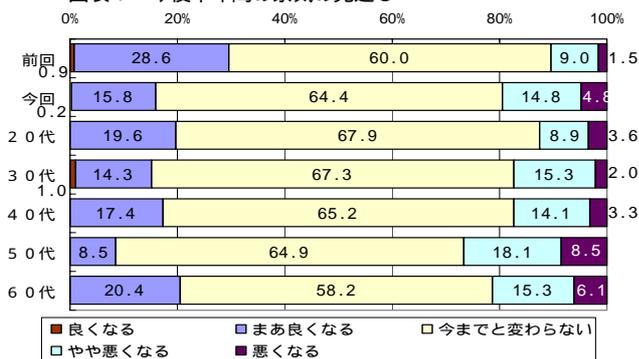
自由回答では、「食品偽装問題の影響で買い控えによる倒産や失業者が多くなりそう」「アメリカ経済の影響を受けそう」といった意見がみられた。

【景気の見通しD I】

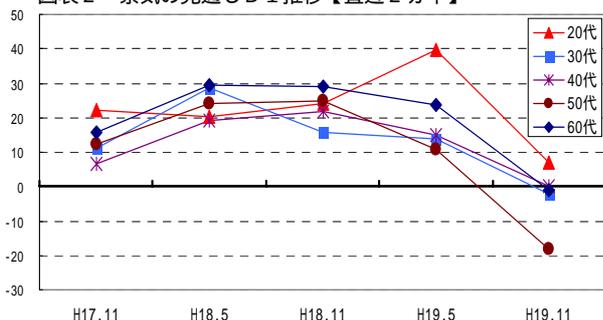
D I=(良くなる・まあ良くなる)-(悪くなる・やや悪くなる)

今回 (H19.11)	今回		前回 (H19.5)
	今回	前回比	
全体	3.6	-22.6	19.0
20代	7.1	-32.6	39.7
30代	2.0	-15.8	13.8
40代	0.0	-15.0	15.0
50代	18.1	-29.0	10.9
60代	1.0	-24.9	23.9

図表1 今後半年間の景気の見通し



図表2 景気の見通しD I推移【直近2カ年】



暮らし向きの見通し

暮らし向きの見通しD Iは、前回は9.6ポイント下回り36.6となった。年代別にみると、すべての年代で前回は下回っており、特に60代は、14.2ポイント下回り43.5と、調査開始以来最低の水準となった。20代は、「良くなる」との回答率が他の年代より高いものの、見通しD Iは、前回は20.1ポイント下回り24.9となっており、景気の見通しと同様に下降幅の大きさが目立つ(図表3、4)。

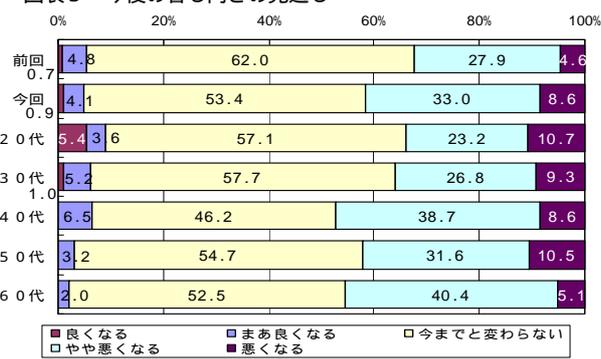
自由回答では、「税金が増え、食料品が値上がりし、家計に影響してきた」「教育費や医療費がかかりすぎる」などの意見があり、公的負担増や物価上昇が家計に及ぼす影響の大きさがうかがえる。

【暮らし向きの見通しD I】

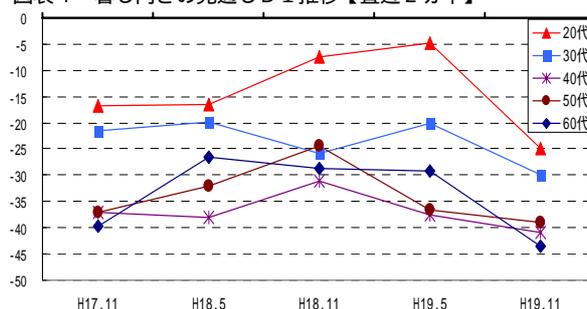
D I=(良くなる・まあ良くなる)-(悪くなる・やや悪くなる)

今回 (H19.11)	今回		前回 (H19.5)
	今回	前回比	
全体	36.6	-9.6	27.0
20代	24.9	-20.1	4.8
30代	29.9	-9.7	20.2
40代	40.8	-3.2	37.6
50代	38.9	-2.3	36.6
60代	43.5	-14.2	29.3

図表3 今後の暮らし向きの見通し



図表4 暮らし向きの見通しD I推移【直近2カ年】



収入の見通し

今後半年間の収入見通しD Iは、前回は2.2ポイント下回る10.1であった。内訳をみると、20代・30代は、それぞれ前回は7.1ポイント、0.7ポイント下回ったものの、なんとかプラス水準にとどまっている一方で、40～60代ではマイナス水準となっている。

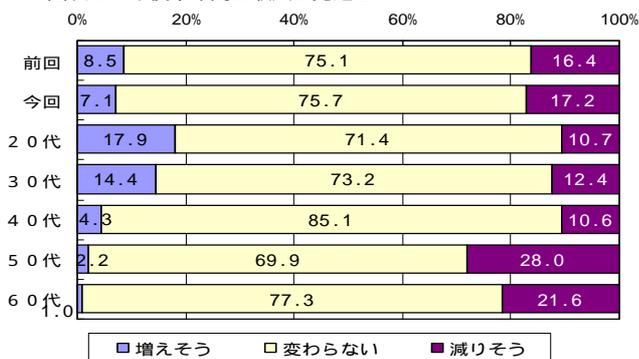
半年前と比べた収入実績D Iの推移を見てみるとすでに下降局面に入っており、今後さらに、原油高による原材料や燃料の高騰を価格転嫁できない企業では賃上げが大きく期待できないことが予想され、今後も厳しい見通しは続くものと思われる(図表6)。

[収入の見通しD I]

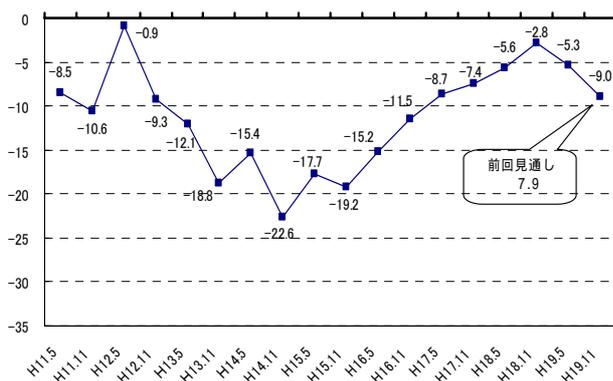
D I=増えそう - 減りそう

→ (目)	今回 (H19.11)		前回 (H19.5)
	今回	前回比	
全体	10.1	-2.2	7.9
20代	7.2	-7.1	14.3
30代	2.0	-0.7	2.7
40代	6.3	2.3	8.6
50代	25.8	-7.0	18.8
60代	20.6	2.2	22.8

図表5 今後半年間の収入の見通し



図表6 半年前と比べた収入実績D Iの推移(「増えた」-「減った」)



支出意欲 (支出の引き締め具合)

今後支出を緩めるかどうかをみる支出意欲D Iは、前回は6.5ポイント下回る33.5であった。年代別にみると、20代で、財布の紐を緩める傾向がみられたものの、全体的に引き締める傾向は続いている(図表7、8)。

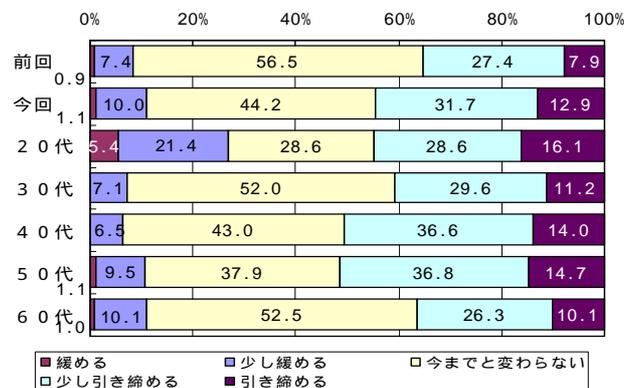
自由回答では、「もったいない精神とエコのためにも後でゴミになりそうなものは極力買わないようにしたい」、「先行きが不安なので支出は引き締めたい」といった意見が挙がっており、賢い消費者態度と見えにくい将来への懸念から貯蓄への努力がみられた。

[支出意欲D I]

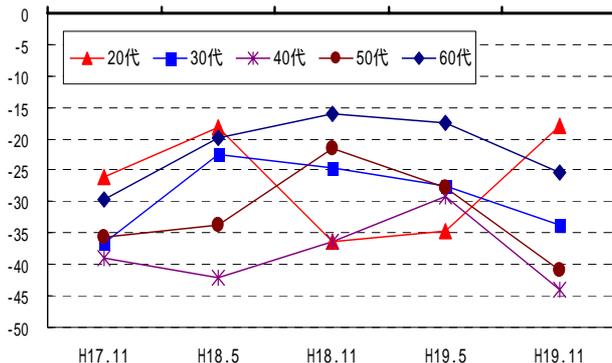
D I=(緩める・少し緩める) - (引き締める・少し引き締める)

→ (目)	今回 (H19.11)		前回 (H19.5)
	今回	前回比	
全体	33.5	-6.5	27.0
20代	17.9	16.9	34.8
30代	33.7	-6.2	27.5
40代	44.1	-14.8	29.3
50代	40.9	-13.2	27.7
60代	25.3	-7.9	17.4

図表7 支出意欲 (支出の引き締め具合)



図表8 支出意欲D Iの推移【直近2カ年】



支出：日常的支出

ここ半年の日常的な支出DIは、「日常の食費」で前回の支出DIを6.0ポイント上回る+12.2、「公共料金・通信費」で7.6ポイント上回る+23.6と高くなっており、すでに原油高騰による食品や光熱費等の価格上昇が影響しているものと思われる（図表9）。

今後半年間の日常的な支出の見通しDIは、「行楽・レジャー」が前回の見通しDIを6.3ポイント下回る8.4、「自分の趣味・習い事」が8.8ポイント下回る13.8と引き締め傾向にある。物価上昇の動きがさらに続くことが予想されることから、出費を抑えられる品目はできるだけ抑え、生活必需品目に回す様子がうかがえる。

そのような中、「子供の教育費・習い事」の見通しDIは、4期連続で上昇している。

支出：非日常的支出

非日常的な支出は、「国内旅行」が支出実績・支出見通しともに割合が高く、回答者のほぼ半数に上っている（図表10）。原油高騰により国際線の燃油サーチャージ（燃油特別付加運賃）値上げが相次いでいることから、今後さらに海外旅行から国内旅行へシフトすることも考えられる。

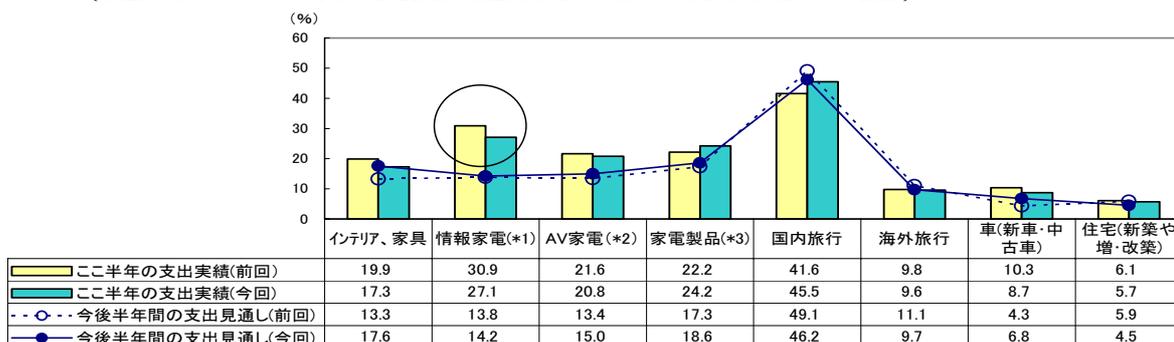
また「情報家電」は、支出見通しより支出実績が高い傾向が続いている。前回の支出見通し13.8%に対し、支出実績は27.1%と2倍近い購入率となっており、次々と新機能・新製品が登場するうえ、旧型・旧式となると価格が下落し買い求めやすくなる影響からか、計画外の購入が多いことがうかがえる結果となった。

図表9 日常的な支出品目のここ半年の支出実績DIと今後半年間の支出見通しDI【直近2期比較】
（支出DI = 増えた・減った、支出見通しDI = 増やす・増えそう・減らす・減りそう）



* 1 「行楽、レジャー」は、旅行(国内・海外)を除く

図表10 非日常的な支出品目のここ半年間の支出実績と今後半年間の支出見通し【直近2期比較】
（支出実績 = ここ半年間で購入した割合、支出見通し = 今後半年間で購入計画ありの割合）



* 1「情報家電」とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話、ファクシミリなど

* 2「AV家電」とは、テレビやDVDレコーダー、デジタルカメラやビデオカメラなど

* 3「家電製品」とは、冷蔵庫や洗濯機、食洗機やエアコンなど、情報家電やAV家電以外の電気製品